岩盤ボーリング柱状図

調　　査　　名　陰平川通常砂防事業に伴う業務委託

事　業　・　工　事　名

調査目的及び調査対象　砂防　砂防

ボーリング名	No.3	調査位置	広島県福山市駅町後地	北　緯	34° 23′ 42.1059″
発注機関	広島県東部建設事務所	調査期間	令和2年 6月 4日～ 令和2年 6月 5日	東　経	133° 22′ 26.3849″
調査業者名		主任技師		現場代理人	コア鑑定者 / ボーリング責任者
孔口標高	TP 87.19m	角度	180 上 90 下 0°	方向	北 0° 270° 90° 西 東 180° 南
総削孔長	4.00m	地盤勾配	水平 0° 鉛直 90°	使用機種	試錐機：YBM-05型 / エンジン：ヤンマーディゼルNFD-9 / ポンプ：東邦地下工機GP-3

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	工学的地質区分名(模様)	工学的地質区分名	色調	風化の程度	変質の程度	硬軟	コア形状	割れ目の状態	岩級区分	コア採取率 (%) / 最大コア長 cm / RQD [%]	記事	孔内水位／測定月日
1	85.99	1.20		砂礫	暗茶								GL-0.0～0.5m　河成堆積物。砂と礫の割合がほぼ1：1である。砂は細粒砂～粗粒砂で、礫はφ2mm～100mmの亜角礫である。また葉や根が多く混入する。	6/5 0.82
2				粘板岩	灰青～灰褐	w4	h1	D	V	d	D	C[0](100)	GL-0.5～1.2m　崖錐堆積物。φ2mm～50mmの角礫主体で細粒砂～粗粒砂を多く含む。	
3					暗灰褐									
					暗灰青	w3		C	IV	c	CL	2[0](100)	GL-1.2～4.0m　基盤岩。GL-1.2～3.4m　泥岩質と砂岩質が混在する粘板岩で主に角礫状～片状を呈す。約50～70°の片理が見られ、片理に沿った亀裂や水平～20°の亀裂が多く発達する。亀裂沿いに風化し亀裂部は褐色を呈す。また礫を挟む。礫、岩片は比較的硬質で、ハンマーでたたくと亀裂沿いに砕ける	
4	83.19	4.00			暗灰褐	w4		D	V	d	D			
					暗灰青	w3		C	IV	c	CL	C[0](100)		
					灰白～灰青									
					灰白青								GL-3.4～4.0m　砂岩質優勢の粘板岩で片状～短柱状を呈す。層理や片理は見られない。多方向の亀裂が多く発達しており亀裂沿いに弱風化～風化しており、礫を挟む。岩片は比較的硬質でハンマーでたたくと亀裂沿いに砕ける程度。	
5														
6														
7														
8														
9														

標準貫入試験

深度	N値	打撃ごとの貫入量	50回の貫入量	自沈時の貫入量
1.15	50以上	50	90	
1.24		90		
2.00	50以上	50	180	
2.18		180		
3.00	50以上	50	200	
3.20		200		
4.00	50以上	貫入不能		

原位置試験　室内試験

削孔状況

削孔月日	削孔速度 (cm/h)	孔径・孔壁保護	コアチューブ・ビット	給圧 (MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	削孔水・送水量 (L/min)	排水量 (L/min)
6/4	0	80/ケーシング	87/WC	300	50	0	W30	0
	97					0	W37	7
	130	66/ケーシング	HW/DI	100	150	1	W310	10
	123							
6/5	115							